

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2019年を感謝のうちに、希望をもって歩み始め出したばかりというのに、もう2月末を迎えようとしています。早いものですね。皆さまいかがお過ごしですか。

今号は、仙台白百合中学・高等学校の生徒さんが、お正月早々に、南三陸ベースで、復興支援活動をしてくださった様子を、渡辺先生がご自分の体験も含めてご紹介くださいました。また、もう一つの記事は、亘理教会で行われた八木山教会と亘理教会の協働による心温まる寄り添い活動をご紹介します。どうぞ、ご覧ください。

被災地ボランティア報告

仙台白百合学園中学・高等学校教諭 渡辺 颯一郎

2011年3月11日の東日本大震災から早いもので約8年の月日が経過しようとしています。今でも震災当時の記憶が鮮明によみがえってきます。当時、私は、都内の某レンタルビデオショップでアルバイトをしていたのですが、勤務中、突然、大きな音とともに建物自体が大きく揺れはじめ、DVDを収納している棚が次々と倒れ、あっという間に店内はパニック状態となり逃げ惑うお客さんたちであふれかえりました。(都内でも激しく大きな揺れだったため「もしかしたら、今日が人生の最期になるのかもしれない…」ということが脳裏によぎるほどでした。) そのような状況の中で、他のスタッフとともにお客さんを安全な場所まで誘導したところで、人づてに今回の震源地が宮城だということを知られ、地元である私は顔面蒼白となり、その様子を見たスタッフに「渡辺くんの実家、確か仙台だったよね、大丈夫なの？事務所にある電話使っていいから早く家族の安否確認をしろ」と声をかけていただき、急いで電話をかけたものの実家につながらず、何度も何度もかけてみるも、つながらず…。その日は、結局、家族の安否の確認がとれなかったため、終始、生きた心地がしないまま家路についたことが最近のことのように思い出されます。

その後、しばらくして家族の無事が確認でき、徐々にではありますが、私自身、日常の生活を取り戻しつつあったのですが、連日テレビに映し出される被災地の過酷で悲惨な状況を目の当たりにし、自分もただボーッと生きるのではなく、被災地のために何かしなくてはという衝動に駆られ、ボランティア活動をはじめようになりました。はじめは個人的なボランティアとして行っていたのですが、幸いなことに様々なご縁をいただき、前任校と現任校と学校の教員として生徒とともに被災地ボランティアを行う機会に恵まれました。

その後、ベースに移動し、翌日からは漁具の清掃や、ワカメの出荷の手伝い等の漁業支援や地域の障がい児見守り施設などを訪問し、現地の方々との交流を深めながら各自が与えられた場所で懸命に奉仕活動に励みました。2泊3日という短い期間ではありましたが、各々に感じるものがあって、生徒たちからは「震災から年数は経過したが現在でも心的にも外的にもあちらこちらに震災の傷跡が残っていることがわかりました。復興のためにも、微力かもしれないが今後も被災地のためにできることを行っていきたい」とう声があがりました。

これからも被災者の皆様に思いや心を寄せ、学校としても個人としても継続的に活動を行って行ければと考えています。



復興住宅でのたこ焼きづくり



障がい児見守り施設での活動



ベース玄関前での集合写真



漁業支援（浮き球清掃）



津の宮漁港でカキの原盤通し作業



新年会（志津川中央復興住宅）で東北弁かるた

今年度も1月6日(日)～8日(火)までの期間でカリタス南三陸ベースを拠点とし、生徒とともにボランティア活動を行いました。初日はカトリック元寺小路教会でミサにあずかり、心を一つに、被災地の方々のために祈りを捧げた後、サポートセンターの皆様方のご協力のもと、石巻ベースのスタッフである佐藤さだ子さんからお話をいただきました。お話の中で、当時の石巻の様子や佐藤さん自身が経験した緊迫感あふれる出来事の数々を伝えていただいた他、言葉の端々からあふれる震災当時から変わることのない被災者のみなさんへの優しいまなざしや温かな思いをうけとり、生徒一同、ボランティア活動に対する思いをより一層強くすることができました。

津波被災者と共に祈るボランティア

カトリック八木山教会・オリーブの会 野田 和雄

寒風の中、晴れた1月23日(水)、カトリック亘理教会でオリーブの会を催しました。オリーブの会は、地元亘理の津波被災者に寄り添う歩みを続けて7年になるうとしています。

今回の集いは、1月4日に亡くなった被災者を偲ぶ祈りをパウロ神父様が唱えることによっではじまりました。祭壇の前で祭服を着たパウロ神父様が祈り、皆が手を合わせている姿は日曜のミサ？と思わせる光景です。被災者のほとんどが信徒ではありませんが、仮設住宅から長く苦しい時をのり越えて来た仲間を思い、手を合わせています。私たちカトリック教会のボランティアの基本は隣人のために祈り、支え合うことだと気付かされました。

祈りが終わるといつもの楽しいオリーブの会に戻ります。今日はお茶のお点前と三味線演奏があるので、男性が毎回たのしみにしている囲碁・将棋はおあずけです。

オリーブの会のように津波被災者が仮設から出た今でもカトリック教会に集り、共に語り合う姿は、全国でも珍しいことだと思います。被災者の方々が今も絆を大切に仲間のために祈り偲ぶようになりました。食前の祈りが遅くなると参加者から「早くおいのり！」とさいそくされることもありましたが、主に恵まれた傾聴ボランティアが出来るようになったのは、長年にわたる教会関係者の祈りと協力があったお陰だと感謝しています。

また、この会がこれからも歩み続けられるように祈りとご支援をお願いします。



心をあわせて故人のために祈るパウロ神父様と参加者

お茶のお点前と作法の解説は裏千家の近藤宗初さんです。着物姿の先生はお正月らしい華やいだ気分を引きだしながら作法や茶器について、分かりやすく教えてくれます。今日のお菓子は「花びらもち」。ぎゅうひに包まれたあん「ごぼう」が絶妙にからんで楽しさとおいしさが口の中に広がります。「甘い！」と感じた後味に深緑の抹茶が泡立ち、茶葉の香りがただよってきます。「おいしい！」「うまい！」の声がもれてくると先生もスタッフもうれしそうです。参加者もお茶は好きな人が多く、毎回好評です。

抹茶の香りが残る中で、三味線の演奏が始まります。大漁節や親しみやすい唱歌に手拍子が加わります。耳に心地よいリズムと手拍子が会場に広がると皆が一体化してゆきます。ボランティアとして茨城から来てくださった演奏者の奥村祐一さんは昨年よりさらに腕をあげ、選曲でも演奏でも皆の心をつかんでいます。

三味線の音や手拍子が聞こえる中で、台所では昼食の準備がすすんでいます。40名ほどの食事を亘理・八木山のベテラン主婦？が作っています。手分けしてちらし寿司、汁物、漬物、ケーキ、盛りつけに忙しく働いています。長嶋幸子さんは頼りにしている先輩竹内哲子さんが来るまで大変！と感じながらも頑張っています。



FMMのシスター奥田(左)とシスター大垣(右) 楽器の音にあわせて歌を楽しむ参加者



ケーキや花びらもち、ちらし寿司など、参加者みなでにぎやかに楽しく味わいました



明るく作法などを解説される先生



パウロ神父様がお手本になって作法を実践



三味線にあわせて手拍子しながら唱歌などを楽しむ参加者の皆さん



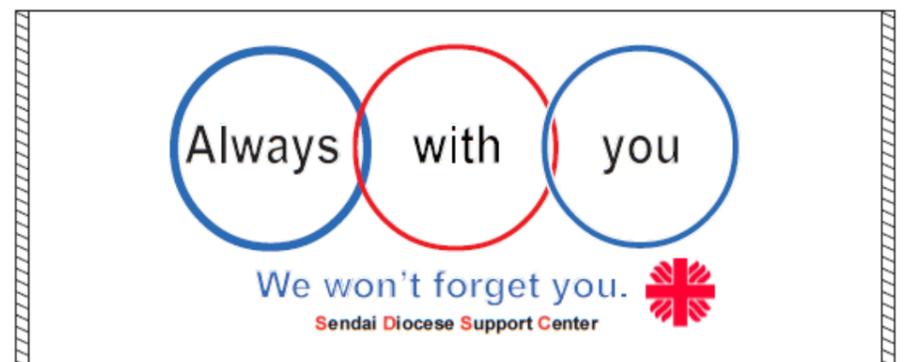
三味線演奏が終わるとテーブルを出し、ちらし寿司が色鮮やかに並びます。参加者ほとんどが協力するので配膳はスムーズです。

パウロ神父様が食前の祈りを唱えた後で「いただきます！」の音が響くとお昼ごはんです。参加者の中には、一人で食事する人も多く、オリーブの会で大勢でにぎやかに食べるだけでもうれしくなります。目の前のちらし寿司や漬物、ケーキを食べながら「汁のおかわりあるの？」「このケーキはどこ？」「これがおいしい！」「こっちが好き！」とにぎやかです。

食事の後は、いつものように鈴木隆さんのギターで歌を歌います。大きな声で歌い続けると気分も軽くなります。楽しい会話は毎回のことですが、今回は新しい参加者もありました。初めて参加した人は少しとまどっていましたが、食事や歌が出るころには、すっかり慣れて皆と一緒に笑っています。

スタッフ側でもFMM(マリアの宣教者フランシスコ会)のシスター内田の異動に伴い、シスター奥田が初参加です。

2019年 東日本大震災復興支援タオルについて



仙台教区サポートセンターで、昨年に続き作成しました「復興支援タオル」へ、北海道から沖縄県まで全31都道府県の皆様からお申込みをいただきました。ありがとうございます。多くの方々のご支援に感謝いたしております。

1月31日でお申込みを締め切らせていただきましたが、若干数、在庫がございます。ご希望の方は、お電話やメールにて、サポートセンターまでお問合せいただければと思います。(在庫が無くなり次第、取扱い終了予定です。)

東日本大震災からまもなく8年となりますが、今後ともご支援・ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問合せ先】

仙台教区サポートセンター

電話番号：022-797-6643

※タオル1枚につき、300円以上のご寄付をお願いいたします。(送料別)

※送料は着払いとなりますのでご了承ください。

※いただいた寄付金は、全額、カリタスジャパンを通して、東日本大震災復興支援活動のために使われます。